

新年賀謹



多古町議会議長

加瀬 芳廣



多古町長

菅澤 英毅

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、新たな気持ちで二〇一三年の新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

成田国際空港の開港から30年が経過し周辺地域は空港とともに発展してまいりました。しかしながら、空港西側地域の発展に比べ、東側地域は、空港の波及効果が享受されておらず、肥沃な耕地が広がり豊かな自然が残る一方、少子高齢化は進み地域の活性化が課題となっております。年間発着枠が30万回に拡大されたことを契機に、周辺地域のバランスのとれた発展を強く望んでおり要望等働きかけてまいりました。

懸案となっていた圏央道整備につきましては、多古エリアを含む18・5kmの未着工区間の地元説明会が開催されることになりました。そ

二〇一三年癸巳年、町民の皆様におかれましては、健康で明るく幸せな新春をお迎えできましたこととお喜び申し上げます。

本年の多古町は明るさでいっぱいです。多古第一小学校の先には子供を産み育てられる環境づくりと、幼児教育の重要性を考え0歳児から5歳児までのこども園を、平成26年の開園を目指して着工する予定です。その向かい側には道路沿いに町並み景観形成の整った住宅が建つという構想の民間宅地開発が計画され、待望の多古台にも開発の槌音が聞こえそうです。圏央道につきましては、芝山町・多古町両議会が全員賛成で千葉国道工事事務所へ、早期着工、早期完成の決議書を提出したところです。説明によ

こで、森田県知事へ「空港東側地域の土地利用」「圏央道および周辺道路の整備促進」「国道296号の4車線化」等を要望するとともに、空港の波及効果を東側地域に浸透させるため「多古町成田国際空港東側地域戦略構想」を策定し、多分野にわたる町の振興策を積極的に講じるものであります。

一方、開港30回を記念して成田国際空港発着での「町民ふれあい号の旅」は、定員を大きく上回る応募をいただきました。開港30年を経て、空港を町民の皆様が共通財産と身近に感じていただき、夢のある共存・共栄を図りたいと思っております。

多古台開発について申し上げますと、公共エリアでは、充実した幼児教育と多様な保育ニーズに対応する（仮称）多古こども園の建設を進めるとともに、住宅エリアでは、昨年11月、セキスイハウスグループの積和不動産(株)と譲渡契約を締結し、来年春季の分譲を目指し新たなまちづくりが始まろうとしております。

また、基幹町道飯笹・西古内線の道路建設工事につきましても来年度の完成を目指し、着々と工事を進めております。

今後も「町民に開かれた町政」をモットーに、行政のスリム化と効率化に配慮し、多古町の特徴を積極的に創出すべく努力してまいりますのでございます。

結びに、皆様の益々のご多幸を心からご祈念申し上げます。新春のごあいさつとさせていただきます。

れば、平成24年度内に関係地区に説明会開催の後、予算の付き次第、平成25年に地権者の理解が得られれば用地買収も可能とのことでした。

成田空港につきましては、共生共栄の考えから騒音下の方々のご理解をいただき30万回を認めたところであります。平成25年度には27万回離着陸可能と聞いています。LCCの進出により国内線も8路線から12路線となり、国際線へのLCCの増便も考えられると認識していますが、騒音という環境対策にはより一層の配慮が必要かと思えます。

空港発展と共に空港東側入口や、バスターミナル、物流基地等、空港東側開発に努力し、県道成田松尾線と圏央道のアクセスも検討すべきと考えます。

鉄道がなく公共交通機関の乏しい多古町が全国初の取り組みとして、JAF千葉支部と観光・農業・商業等の地域振興・都市と農村の交流、JAF会員向けサービス等相互連携を強化する包括協定を締結し、地域の活性化とJAF会員向けサービスの向上が図られたところです。議会としても町発展のため、より一層の努力を重ねる決意ですので、皆様のご理解とご協力をお願いするところです。

癸巳の年が町と町民の皆様にとりまして最良の年であることを念じて、年頭のあいさつとさせていただきます。

